

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月26日(木)

会場: 川西コミュニティセンター

参加者数: 15人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>20代、30代の女性の転出が増えており、女性の活躍を推進するために、女子野球を誘致したと聞いた。しかし、本日、市の出席者は全員男性であり、矛盾している。出席者を選ばれる際に、女性を1人は入れようという意見はなかったのか。会場全体にも女性が少ない。このような市の姿勢が、女性参加のハードルを上げているのではないかと。川西地区に転入してきて2年目になり、住みやすいと感じている。女性がいきいきと活動されるとともに、女性が要所におられ、男性ばかりが動いていない。川西地区では、20年ぐらい前から、意図的に、会議の出席者を男女半々になるようにされている。中高年の男性だけでは新しい考えが出てくれない面がある。女子野球の取組もいいと思うが、本日のような会議に女性が出席されるなど、見てわかるところから取り組んでほしい。</p>	<p>本日の懇談会は、関係する部署の部長級職員が出席しており、たまたま男性だけになった。組織全体では、部長級の女性の登用率は2割を超えており、これまで以上に女性の登用を進めている。また、本市では、女性の起業支援を行うアシスタlab.の取組が根づきつつある。市外の方からも、女性への支援が手厚い等の声をいただいているが、まだ十分とは言えない。防災に限らず、いろいろな分野において、男性だけでは気付かなかったことは多くあり、女性ならではの視点を意識しながら、取組を進めていきたい。</p>	
<p>市として、20代から30代の女性が転出傾向にある原因を把握しているか。女子スポーツの振興によって地域の課題解決をめざすということに具体的なイメージが見えない。女性の転出傾向の理由が何であれ、スポーツ振興で女性に関する課題を解決しようとするのは難しいのではないかと。課題を整理した上で、予算をつけて取り組んでほしい。アシスタlab.はこれまでの取組であり、女性に関する新しい政策を始めてもいいのではないかと。</p>	<p>来年度に向けた予算編成作業をしており、女性に関する新しい施策を検討している。また、10年後の本市のありたい姿を示す総合計画を策定中である。災害やコロナ、女性活躍などの地域課題を詰め込んだ計画にする予定である。女子野球による地域課題の解決例として、企業が求人募集をしても思うように人材を獲得できない中、本市に女子野球チームができれば、企業が支え合いながら、女性に就労してもらえ、女子野球チームに所属する選手にとってもいいし、企業側にとっても貴重な人材確保につながる。野球は、これまで男性のスポーツというイメージがあり、野球場のベンチ裏には男性用トイレしかないことも多い。現在、ジェンダーレス社会が進みつつあり、性別を問わず、いろいろな政策を進めることが大切である。</p>	
<p>鳥獣の捕獲報奨金について、本市は一律で2,500円であり、全国平均と比べると非常に低い。本市ではアライグマも多く出るが、捕獲しても報奨金はない。少なくとも、全国平均まで上げていかなければ厳しい。ハンターも減ってきている。全国平均ぐらいの報奨金が出れば、職業ハンターとして成立すると聞く。全国から人が集まるのではないかと。</p>	<p>捕獲報奨金について検討していかなければならない。一方で、本市では、若いハンターや女性のハンターが増えており、平均年齢は低くなっている。地域と行政との連携をより強化して、農業被害の軽減に結びつけていきたい。また、クマの被害についても、連日のように報道されており、里山に下りてきている。鳥獣の生態も変化してきており、クマの被害が出る前にできる限りの対応をしていきたい。</p>	
<p>本市の元気づくりの一環として、スポーツ振興に取り組まれている。川西地区のスマイル学級という講座で、女子野球ワールドカップ予選のベネズエラ対チャイニーズタイペイの試合を応援した。高齢者の皆さんは非常に喜び、最後まで観戦したいという声があった。スポーツが盛んな地域は、高齢者の元気づくりにつながると感じた。女子野球の聖地をめざすと言われていたが、スポーツを通じて高齢者の元気づくりにつなげてほしい。</p>	<p>今回の国際大会を通じて、いろいろな価値が生まれた。小学校や中学校に協力いただくとともに、高校生もボランティアとして参加していただいた。アナウンスの役割を担っていただいた生徒は、大会の終了にあたり、涙を流されていた。参加国の皆さんも、三次のおもてなしに感動されていた。この大会を開催してよかったと感じている。高齢者をはじめ、いろいろな世代の皆さんに、スポーツの可能性を実感していただく取組を実施していきたい。体が元気でなければ、日常生活もわくわくしない。市民の皆さんの元気につながるような取組を進めていきたい。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月26日(木)

会場:川西コミュニティセンター

参加者数:15人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>市公式LINEは、文章が短く、画像がついているので、市からの情報が分かりやすい。市公式メルカリShopsについて提案がある。市民活動をする団体は予算が少なく、物を購入することは難しいため、使用されていないものをいただくなど、お金をかけずに物を調達している。これまでも、公的機関から不用品が出た際に声をかけていただいた。メルカリShopsに出店する前に、非営利団体や子ども会、老人クラブなどに連絡していただけないか。市民への資源循環の方法もあれば、市民活動が活性化して、市が結果として良くなっていく。そのあとにメルカリShopsに出す仕組みを作ってほしい。</p>	<p>メルカリShopsや不用品即売会などの前に情報提供をすることについて検討させてもらいたい。</p>	<p>【住民自治組織へ回答】この事業は、市が率先してリユース活動に取り組むことにより、市民の皆さんもリユースに関心を持っていただき、限りある資源を有効活用する循環型社会の形成の推進を図る取組です。本市のメルカリShopsの取組に関心を持っていただき、自らもリユースに取り組んでいただくきっかけづくりに繋がるよう考えています。本市におけるメルカリShopsの商品にも魅力あるものがなければ市民の関心も集まらず、特定の団体に良いものを先に無償で提供すると、全く魅力のない不用品ばかりとなり本市の公式ショップの価値を下げることになり、これらの取組の関心が薄れてしまうことを懸念します。幅広く皆様にご利用いただくためにも、特定の団体に先んじて無償で譲渡することは考えておりませんが、安価に購入いただける金額設定としていますので、市の取組に賛同いただけましたら、ご購入を検討いただけますようお願いいたします。</p>
<p>本市のほとんどは農村地域である。10年後にどのようになっているのか不安である。市として、これからの10年における農業をどのように考えて、予算をつけていくのか。川西地区には棚田など守りたい景観がある。市内各所にも守りたい農村景観があると思うが、地域で維持するには厳しい状況となっており、市としてどのように守っていくのか。</p>	<p>多面的機能を有する農地を活用して、循環型社会をめざしていくことが理想の姿である。日本の食料自給率は低く、一部を輸入しなければならず、地元で採れた農産物を消費する取組を広げることは大事である。現在、農業の担い手や農地を管理する人がいない。農業組合法人海渡は、将来を見据えて、法人化によって規模を拡大させて、生産効率を高める取組をされてきた。今回の三次市総合計画策定に際して、10年先を見据えた施策を議論している。例えば、本市は漢方薬材の産地化に取り組んでいる。本市でしかできない漢方薬材を生産して、販売することにより、本市の付加価値が高まる。この栽培がうまくいけば、持続可能な農業にも結び付くと考えている。今後も、本市の地域資源の活用を追求していきたい。</p>	
<p>今年、農業組合法人海渡やほしはら山の学校が20周年を迎え、来年は住民自治組織が20周年となる。社会情勢が変化してきており、設立趣旨も変わってきている。20年前から川西地区のビジョンづくりが始まり、男女参画の観点から、住民自治組織の役員で策定するのではなく、策定委員会をつくり、男女の人数を半々にするように努めた。また、年齢層のバランスを取ったことにより、若い人たちからいろいろな発想が出てきた。会議を活性化させるためには、ある程度、仕組んでいくことが重要である。川西地区のビジョンでは、川西地区の魅力は田舎性にあることで合致した。今、農業は転換期にある。農協の広域合併、インボイス制度などによる会計処理の困難化、担い手不足、高齢化など変化してきた。これまでの農事組合法人の運営方法では駄目であることから、就農者を募集するため、農業者大学校において説明した。その後、20人ぐらいが実習に来られ、米作りには魅力がないが、この川西地区の地域づくりや取組に関心があったという意見をいただいた。また、県の就農支援フェアでブースを設置した際には、法人の取組と地域づくりの取組を合わせた資料を作った。</p>	<p>人手不足は農業に限らずいろいろな分野で表れており、どのような形で人手不足に対応していくかが課題である。甲奴地区の取組として、宇賀でアスパラガスを生産等の作業をしながら、地域の活性化をめざす地域おこし協力隊がいる。任期である3年間でノウハウを学び、定住につなげていく取組が始まった。農業組合法人がこの取組に手を挙げていただいて、行政と一緒に人手不足を解消していくことも可能である。また、甲奴地区には、ボランティア団体が、米作りに付加価値をつけるため、企業と一緒に生産し、売り上げを伸ばしていく取組をされている。さらに、学生が地域づくりに参画し、農業の重要性や、食べることの大切さ、地産地消などについて、いろいろと学ばれている。広島修道大学や安田女子大学、福山大学などの学生が、本市の各地域にコミットし、いろいろな地域活動につなげている。今後も、いろいろな情報を提供させていただき、アイデアがあれば教えていただき、それに向かって一緒に取り組んでいきたい。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月26日(木)

会場: 川西コミュニティセンター

参加者数: 15人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>イノシシやシカが身近になっており、鳥獣被害が出ている。毎年、多くの予算をかけて対策をしている。地域や個人で取り組める範囲を超えている。また、気象も変化しており、今までの栽培方法が使えなくなっている。お金による支援ではなく、専門家や行政に対して相談できたり、一緒に研究して取り組んでいく体制づくりをしてほしい。米のほかにも、大豆やスイートコーン、アスパラガスなどを栽培しているが、米作りが基本であり、農業施策を充実させてほしい。</p>	<p>鳥獣被害は、どの地域でも深刻な問題である。市では、猟友会の皆さんと連携するとともに、捕獲免許の取得に補助をしている。令和3年度と令和4年度を比べると、イノシシやシカの捕獲頭数は飛躍的に多くなっているが、農業被害額をどのくらい軽減できたのかは把握できていない。市として、ICTを活用した箱わななど、いろいろな取組を実施しているが、頭数を減らすための解決策は見い出せていない。引き続き、地域と一体となって、支援の輪が広がるような取組を検討していきたい。また、専門家の意見をしっかりといただきながら、いろいろな対策を実施していきたい。</p>	
<p>高校駅伝に向けて、沿道の草刈りをお願いしたい。特に、川西郷の駅と藤谷のバス停までの間において、草が多い。県に連絡したが、まだ解決していないため、市からもお願いをしてほしい。また、多くの人が集まる中継所のために、民間地の所有者にお願いして、借用されたらどうか。</p>	<p>高校駅伝の時期には、地元の皆さんのご支援により、国道375号線の沿道にサルビアの花を置いていただいている。ランナーの励みになる光景である。県に草刈りを要請していく。関係団体と連携して、応援する人や競技者を気持ちのいい環境で迎えることができるような体制を整えていく。</p>	<p>【住民自治組織へ回答】 本市からも、道路管理者である広島県に、国道375号沿線の除草を依頼します。</p>
<p>今年度、県美展に関する事業を再開していただいた。今後も、美術館や三次市民ホールきりりなどを活かした文化振興をしてほしい。</p>	<p>奥田元宋・小由女美術館などの施設において、本物に直接触れることは素晴らしい。文化、芸術の面においても、これまでの皆さんの思いを未来に継承していくための取組を行ってほしい。</p>	